

令和4年度第1回子ども・子育て会議 協議結果

開催日時	令和4年5月27日（金）～令和4年6月22日（水）	
開催方法	書面協議	
委員出欠	出席委員 25名	エルメス委員、鶴田委員、木村委員、角委員、川野委員、山下委員、矢野委員、安樂委員、森委員、堂園委員、高吉委員、副田委員、藤井委員、軀川委員、宮下委員、友岡委員、新川委員、有川委員、清水委員、柳田委員、牧野委員、川崎委員、渡邊委員、末吉委員、吉原委員

1 協議内容

- (1) 令和5年度教育・保育施設の認定こども園への移行について
- (2) 令和5年度認可保育所への移行について

2 回答状況

- (1) 委員数 25人
- (2) 回答数 25人

3 協議結果

- (1) 令和5年度教育・保育施設の認定こども園への移行について

有効回答数 25人

「承認します。」と回答した委員数 25人

「承認しません。」と回答した委員数 0人

- (2) 令和5年度認可保育所への移行について

有効回答数 24人（有川委員は、対象施設の職員であるため採決から除く）

「承認します。」と回答した委員数 22人

「承認しません。」と回答した委員数 2人

4 協議に対する意見

- ・需要や状況に応じるべく形態を変え運営をしていくように感じるので良い。
- ・根本的な問題について、熟議できていないので保留にすべきと考えます。
- ・委員の御意見からすると、現状で移行の承認を決定してしまうことに、やはり違和感が残ります。もう少し関係者間で話をしたほうが良いのでは。
- ・長年、本市で認可外運営してきた実績、職員の処遇改善、国の移行支援措置があることから、意見等はありません。

5 その他意見等

(委員)

- ・コロナ禍で色々な行事等の開催が難しいなかですが、書面ではなく、対面かせめてオンラインで開催していただくとより良いと思います。

(委員)

- ・今回の書面会議のような協議事項については、様々な立場の方から意見が出るのが予想されますので、書面ではなく、なるべく対面で会議を開催していただいて、十分な意見交換を経て結論を出すという方法で進めていただいた方が良いのではないかと思います。

[事務局]

開催にあたり、オンライン又は会場への参加により案内しておりましたが、感染症の感染者拡大により、急遽、書面開催に変更させていただきご迷惑をおかけしました。今回は、皆さまからの意見を集約し、委員の皆さまにお示しした後、回答いただいた次第です。今後の開催にあたっては、感染症拡大防止の観点も踏まえ、関係団体等からの意見も聞きながら検討してまいります。

(委員)

・「みどりの食料システム戦略」（日本の農地 25%を有機に、化学肥料 30%減、農薬 50%減、給食を販路に）が閣議決定し法律となりました。給食がオーガニックになると、残留農薬や添加物を避けることで、腸内環境が改善され、栄養吸収率が上がる、子どもたちが元気になり、医療費の削減につながる（導入した熊本の保育園では、年間欠席日が 6 日から 0.6 日になったそうです。）、オーガニック化が進めば市のブランド化になる等、ほかの県ではオーガニック給食が実施されています。有機農業の盛んな鹿児島県でも給食の有機化がすすめられるはずですが、現在、鹿屋市には病児保育施設が 1 か所しかなく、キャンセル待ちで利用できなかったこともあります。施設を増やしてほしい、と思っておりましたが、利用者が多い時期と少ない時期があり、難しいと聞きました。オーガニック給食の導入がこのような問題の解決にもつながると思います。子どもたちのために、オーガニック給食の導入を検討していただけないでしょうか。

[事務局]

オーガニック給食を進めるにあたっては、学校給食センターは 1 日に使用する食材必要量が多いことから有機農産物の供給量不足が予想され、計画的、安定的に使用することが難しいことや、通常使用する農産物と比較し高値になることから、学校給食費の予算内での購入が難しいことが課題として考えられます。地産地消に努めている学校給食においては、地元産の有機農産物を使用するためには絶対量が足りないなど、オーガニック給食については、情報収集などを行っていきたく考えています。

(委員)

・22 年以内に生後半年～5 歳の新型コロナウイルスワクチンが実用化されると聞きました。鹿屋市で今後接種をはじめるとにあたり、特に不安を抱えがちな幼児の保護者に対して、ワクチンについての啓発や接種しやすくなるような取り組み等される予定がありましたら伺いたく思います。

[事務局]

わが国では、5 歳から 11 歳を対象に使用できるワクチンが令和 4 年 1 月に薬事承認され、本市においても 3 月に接種券を送付しているところであり、ワクチン接種の効果、副反応など、国からの情報をわかりやすく説明し、ご家族で話し合っただきながら接種を進めています。なお、海外の一部地域では、令和 4 年 6 月から生後 6 か月以上の子どもの新型コロナワクチンの接種が始まっていますが、日本においては、6 か月以上 5 歳未満の接種についての情報は現時点ではありません。

(委員)

・コロナ禍の中で子供達のストレスと親のストレスが増加して不幸な自死や子育ての問題が発生しているようです。民生委員や地域のケアなどいろいろな声や情報を集めて可能な限り対応を願います。

[事務局]

子育て世代支援センターでは、保健師、助産師等による妊娠や出産、子育てなどの相談を受け付けているほか、地域では、民生委員・児童委員及び主任児童委員が子育ての不安や心配ごとなどの相談に応じて必要な関係機関につないでいただいています。今後も、引き続き、連携しながら子育て支援に取り組んでまいります。